

ごあいさつ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

当社グループは、「改革と創生」をテーマに2004年4月よりスタートした中期経営計画(3カ年)の達成に向け2年目となる第44期は、徹底して消費者・お客さまの視点で企業活動を見直し、商品・サービスの改善を行ってまいりました。

環境については、ダスキンでは創業以来の省資源に直結するビジネスモデルを今後も育て、環境保全と企業経営の両立に全力で取り組み、安全・安心、環境に配慮した商品・サービスを提供し続けるよう努めてまいります。

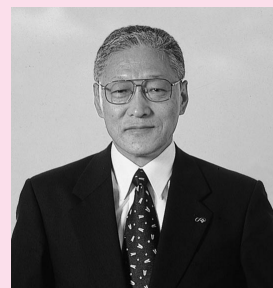
また、コンプライアンスについては、前期策定した「ダスキン行動基準」の実践・定着を図るため、加盟店・組織員も含めたダスキングループのコンプライアンス啓発活動を継続して推進してまいります。

さらに、社員一人ひとりが自ら課題を見つけ、自ら解決し行動する社員の育成に努め当期より業務改革研修を導入しました。その成果は着実に表れ、当期の事業計画の達成や次年度以降の事業計画の策定に活かされています。

今後も「あなたの喜ぶ顔が見たい」をスローガンに、社会から信頼され、一人でも多くの消費者・お客さまから支持される企業を築いてまいります。引き続き、皆さまのご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

伊東 英幸



目次

2p ごあいさつ

3p 財務ハイライト

4p 中間連結財務諸表の概要

6p 中間単体財務諸表の概要

8p 事業の概要

10p 2005年度(第44期)
4月～9月のトピックス

11p 会社概要 / 役員

財務ハイライト

(注)記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。

中間連結決算

(単位:百万円)

	2001年度中間期 (第40期)	2002年度中間期 (第41期)	2003年度中間期 (第42期)	2004年度中間期 (第43期)	2005年度中間期 (第44期)
売上高	107,985	105,778	112,344	102,802	95,049
営業利益	2,532	6,312	6,509	6,759	6,769
経常利益	3,276	7,065	7,281	6,965	7,231
中間純利益(純損失)	1,475	2,876	4,327	1,510	4,821
総資産	182,674	167,585	162,352	183,968	182,505
株主資本	82,592	75,554	71,660	100,628	104,453

中間単体決算

(単位:百万円)

	2001年度中間期 (第40期)	2002年度中間期 (第41期)	2003年度中間期 (第42期)	2004年度中間期 (第43期)	2005年度中間期 (第44期)
売上高	96,595	93,728	100,628	90,124	84,020
営業利益	595	4,965	5,028	5,877	6,126
経常利益	878	5,178	5,162	6,289	8,020
中間純利益(純損失)	30	5,037	3,371	131	3,417
総資産	168,402	158,738	155,124	160,469	170,929
株主資本	110,659	94,784	90,525	82,957	90,678

2005年度(第44期) 中間連結決算の概況

当中間期における我が国の経済は、昨年来の原油価格の高騰や年金問題等の懸念材料はあるものの、企業収益は改善を続け、既に「踊り場」を脱した感があります。民間設備投資も拡大基調に転じ、海外経済の拡大を背景に輸出も増加傾向にあり、企業収益は高水準で推移しております。企業収益好調の中、賃金、雇用も順調に増加し、個人消費も底堅く推移しております。

このような環境の中、売上高は950億49百万円(前年同期比7.5%減)、営業利益は67億69百万円(前年同期比0.1%増)、経常利益は72億31百万円(前年同期比3.8%増)、中間純利益は48億21百万円(前年同期比219.1%増)となりました。なお、前中間期との比較における主な売上高減少の要因は、前中間期に中核事業に経営資源を集中するための事業見直しの一環として、携帯電話等の通信機器販売のeeステーション事業を他社一次代理店へ営業譲渡し事業終了したこと等によります。また、主な中間純利益増加の要因は、前中間期に財務体質の強化を図るために、固定資産の減損損失を特別損失に計上したこと等によります。

■中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	2005年度中間期 (第44期) (2005年9月30日現在)	2004年度中間期 (第43期) (2004年9月30日現在)	2004年度通期 (第43期) (2005年3月31日現在)
流動資産	68,527	90,361	70,228
固定資産	113,962	93,559	110,239
繰延資産	15	47	30
資産合計	182,505	183,968	180,498
流動負債	51,702	48,066	49,218
固定負債	26,423	35,025	31,192
負債合計	78,126	83,092	80,410
少数株主持分	75	248	86
資本金	11,352	11,352	11,352
資本剰余金	5,165	5,165	5,165
利益剰余金	103,202	100,073	99,875
その他有価証券評価差額金	278	598	286
為替換算調整勘定	232	308	246
自己株式	15,313	16,253	16,259
資本合計	104,453	100,628	100,174
負債、少数株主持分及び資本合計	182,505	183,968	180,498

■中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

項目	2005年度中間期 (第44期) (2005年4月1日～2005年9月30日)	2004年度中間期 (第43期) (2004年4月1日～2004年9月30日)	2004年度通期 (第43期) (2004年4月1日～2005年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,509	308	5,995
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,774	6,576	23,371
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,355	1,259	4,660
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	0	15
現金及び現金同等物の増減額	6,617	7,527	22,021
現金及び現金同等物の期首残高	38,803	55,934	55,934
合併による現金及び現金同等物の増加高	11	2,903	2,911
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	32,198	51,310	36,824

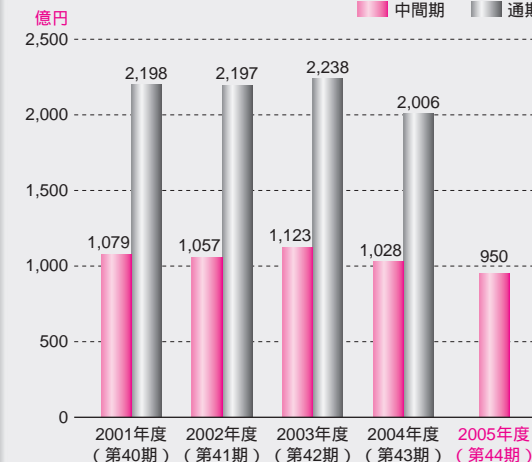
2005年度中間期の現金及び現金同等物の期首残高には、新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高を含めています。

■中間連結損益計算書(要旨)

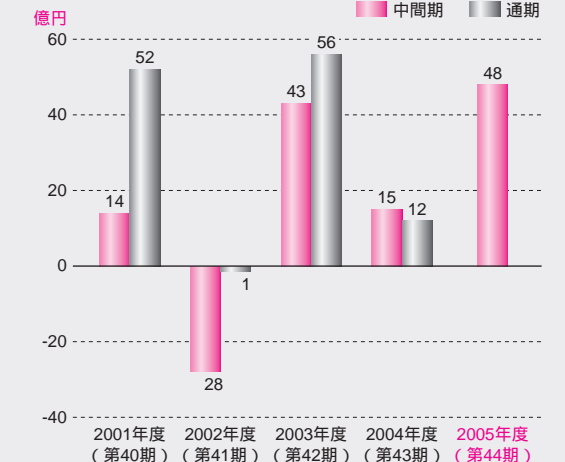
(単位:百万円)

科目	2005年度中間期 (第44期) (2005年4月1日～2005年9月30日)	2004年度中間期 (第43期) (2004年4月1日～2004年9月30日)	2004年度通期 (第43期) (2004年4月1日～2005年3月31日)
売上高	95,049	102,802	200,658
売上原価	53,088	58,975	114,600
販売費及び一般管理費	35,191	37,067	76,915
営業利益	6,769	6,759	9,143
営業外収益	1,559	1,520	2,957
営業外費用	1,097	1,314	3,432
経常利益	7,231	6,965	8,668
特別利益	112	1,139	2,344
特別損失	424	5,310	7,084
税金等調整前中間(当期)純利益	6,919	2,795	3,928
法人税等	2,089	1,189	2,619
少数株主利益	8	94	38
中間(当期)純利益	4,821	1,510	1,270

■連結売上高



■連結中間(当期)純利益



■ 中間貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円)

科 目	2005年度中間期 (第44期) (2005年9月30日現在)	2004年度中間期 (第43期) (2004年9月30日現在)	2004年度通期 (第43期) (2005年3月31日現在)
流動資産	60,256	72,276	56,198
固定資産	110,658	88,145	110,024
繰延資産	15	47	30
資産合計	170,929	160,469	166,253
流動負債	60,990	53,448	54,925
固定負債	19,260	24,063	22,625
負債合計	80,250	77,511	77,551
資本金	11,352	11,352	11,352
資本剰余金	2,732	2,732	2,732
利益剰余金	99,921	91,867	97,929
その他有価証券評価差額金	278	598	286
自己株式	23,606	23,594	23,600
資本合計	90,678	82,957	88,701
負債資本合計	170,929	160,469	166,253

■ 中間キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:百万円)

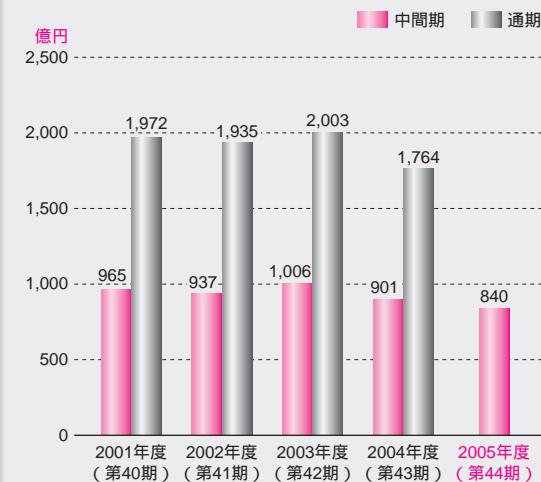
項 目	2005年度中間期 (第44期) (2005年4月1日～2005年9月30日)	2004年度中間期 (第43期) (2004年4月1日～2004年9月30日)	2004年度通期 (第43期) (2004年4月1日～2005年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,108	20,827	24,357
投資活動によるキャッシュ・フロー	9,133	8,520	22,862
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,155	18,468	19,087
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0	0
現金及び現金同等物の増減額	2,180	6,161	17,591
現金及び現金同等物の期首残高	28,788	41,275	41,275
合併による現金及び現金同等物の増加高		4,958	5,104
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	26,607	40,073	28,788

■ 中間損益計算書 (要旨)

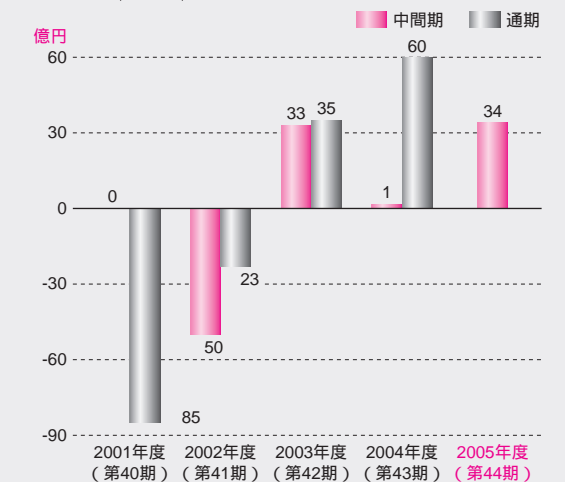
(単位:百万円)

科 目	2005年度中間期 (第44期) (2005年4月1日～2005年9月30日)	2004年度中間期 (第43期) (2004年4月1日～2004年9月30日)	2004年度通期 (第43期) (2004年4月1日～2005年3月31日)
売上高	84,020	90,124	176,441
売上原価	48,272	52,191	103,206
販売費及び一般管理費	29,620	32,054	65,654
営業利益	6,126	5,877	7,581
営業外収益	2,825	1,154	2,633
営業外費用	932	742	2,609
経常利益	8,020	6,289	7,605
特別利益	160	739	4,440
特別損失	2,237	5,509	6,964
税引前中間(当期)純利益	5,942	1,520	5,081
法人税等	2,524	1,388	953
中間(当期)純利益	3,417	131	6,034

■ 売上高



■ 中間(当期)純利益



第44期中間期
単体事業別売上高及び構成比

(単位:売上高/百万円、構成比/%)

	売上高	構成比
サービスマスター事業	2,895	3.4
メイド事業	683	0.8
ターミックス事業	986	1.2
トゥルグリーン事業	282	0.3
ホームインステッド事業	203	0.2
ケアサービス事業分野合計	5,050	6.0

ファミリーマネジメント含む



サービスマスター事業



メイド事業



ターミックス事業



トゥルグリーン事業



ホームインステッド事業

	売上高	構成比
ミスタードーナツ事業	23,922	28.5
カフェデュモンド事業	399	0.5
かつアンドかつ事業	503	0.6
その他	212	0.3
フードサービス事業分野合計	25,038	29.8



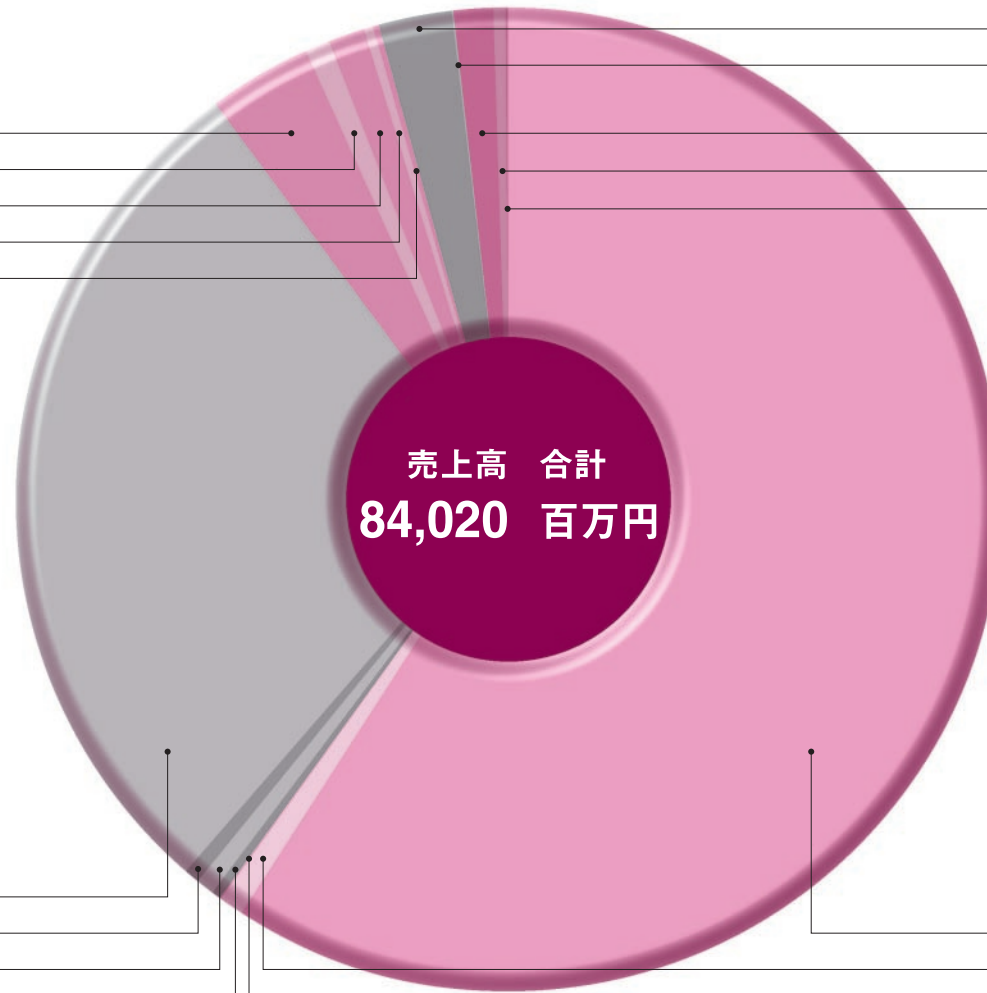
ミスタードーナツ事業



カフェデュモンド事業



かつアンドかつ事業



	売上高	構成比
レントオール事業	1,988	2.4
リサイクルマート事業	30	0.0
レントサービス事業分野合計	2,019	2.4



レントオール事業

	売上高	構成比
ユニフォームサービス事業	1,130	1.3
ドリンクサービス事業	337	0.4
その他	68	0.1
その他事業分野合計	1,536	1.8



ユニフォームサービス事業



ドリンクサービス事業

	売上高	構成比
クリーンサービス事業	49,722	59.2
ヘルス&ビューティ事業	648	0.8
その他	4	0.0
愛の店関連事業分野合計	50,375	60.0



クリーンサービス事業



ヘルス&ビューティ事業

4月 主要事業にも、ついに新VI導入

「改革と創生」をすすめるダスキンの新ブランドイメージを消費者・お客さまに訴求する新VI(ビジュアルアイデンティティ)。4月よりクリーンサービス事業、ケアサービス事業も導入しました。「清潔感」「透明性」「親しみやすさ」といった企業イメージを実現するために、ブルーを基調としたカラーを採用。車輻には創業以来使用し続けている四つ葉のクローバーを使用し、社会からわかりやすい統一イメージの定着を図ってまいります。

「クリーニングサービス事業部」を「ユニフォームサービス事業部」に名称変更

取り扱う商品、サービスの内容を、お客さまにわかりやすく理解していただくために、事業部の名称を変更。お客さまとのコミュニケーション効率の向上に役立っています。



「ドリンクサービス事業部」スタート
カフェサービスとスプラッシュウォーターを統合。それぞれの営業資源(人、商品、ノウハウ)を有効活用し、相乗効果が発揮できる販売チャネルの構築、商品力強化により、営業拠点の拡大、市場シェアアップを目指していきます。

ミスタードーナツ35周年

大阪府箕面市にてミスタードーナツ日本第1号店がオープンして以来、おいしい手づくりドーナツを提供し、4月2日で35周年を迎えました。日本全国で展開する店舗数は1310店(9月末現在)。地域密着型のショップ



づくりにより、ドーナツショップのトップブランドとしての地位を確立する一方、アジアにも進出。今後もますます「おいしさ、たのしさ」の輪を広げていきます。

「愛・地球博」世界中から訪れる来場者をダスキンのマットがお出迎え!!



© Japan Association for the 2005 World Exposition

日本で35年ぶりに開催された万博「愛・地球博」。環境保護をテーマとしたこの博覧会でもダスキンのサービスがお役に立ちました。会場内の80施設(全体の約8割)でクリーンサービスを始めケアサービス、レントオール、ドリンクサービスなどが清潔で快適な施設の空間づくりに貢献。省資源を企業活動や商品に生かしている「ダスキン」の企業姿勢を国内外の来場者にアピールしました。

5つの野球場にダスキンの看板広告

今年度から従来の4球場に加え、高校野球の聖地、阪神甲子園球場にも社名ロゴ看板広告がお目見え。「DUSKIN」のイメージアップに一役かっています。



6月 ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業 25期目を迎える壮行会開催

(財)広げよう愛の輪運動基金では1981年の設立以来、毎年、国内の障害のある若者を対象にリーダー育成を目的とした海外研修派遣を行ってきました。第25期目となる今回は、派遣研修生に11名が選ばれ、6月に壮行会を開催。海外研修派遣事業では、これまで300名以上の障害者リーダーが誕生し、障害者福祉の分野で活躍しています。



日経エコロジーの環境ブランド調査で3年連続ランクアップ!

2万人の消費者が評価する、環境に積極的に取り組む企業ランキングで、ダスキンは2002年度の107位から3年連続で順位を上げ、2005年度の調査では40位にランキングされました。消費者の環境意識の高まりと、「レンタル=エコ」ダスキンが実践する循環型社会への取り組みが結びつき、高い評価につながっています。

7月 グリーン配送を通じ京都市に貢献

京都エリアでは「京都市都心部(まちなか)グリーン配送推進協議会」が推奨するグリーン配送(配送の低公害化)への積極的な取り組みを宣言。上半期は、本社、加盟店が一体となった取り組みで配送車55台を低公害車に切り替えました。

シニアケア市場戦略 着実に進行中

中期経営計画で掲げているシニアケア市場戦略。その核となる、ホームインステッド事業の事業説明会も全国の主要都市6カ所で開催し、拠点拡大を図っています。また、ヘルスレント事業も上半期58拠点増の70店舗にまで拡大し急成長中。シニアケア市場の規模の大きさとビジネスの可能性の高さを表しています。

ダスキン役員と報道関係者との『記者懇親会』初開催

7月28日、大阪本社にて在阪の大手新聞社を中心に13名を迎え、役員自らがダスキンの“今”をPRしました。今日までの改革の進捗を伊東社長が述べるとともに、各役員も担当する事業分野の取り組みについて説明。和やかな雰囲気の中で情報交換も進み、参加した記者からは「ダスキンの改革を肌で感じる事ができました。今後はたくさんの良いニュースを我々にご提供ください」と期待を寄せる声をいただきました。



「改革と創生」のスローガンである「あなたの喜ぶ顔が見たい」が、年々多くの方々からの共感を集め、今年の応募数は昨年の約2倍にあたる8925点!遠く海外からも「喜ぶ顔」が届きました。

優秀賞
「一緒にいいね」
大久保淳さん
(神奈川県)



「行動基準」企業集団向けに発行

本部のみならず、ダスキン企業集団全体が「透明性の高い誠実な企業」として社会から信頼を得るため、4月から全事業の加盟店を対象に勉強会を実施。さらに、加盟店オーナー、働きさんにも「ダスキン行動基準」を作成し配布しました。今後も継続的に勉強会を実施しコンプライアンス体制の強化を図ります。

9月 ケアサービス事業本部 上半期業績好調!!

サービスマスター、メリーメイド、ターミックスの認知度アップを狙ったキャンペーンと、これまでの営業活動の相乗効果により、上半期は3事業揃って前年を上回る売り上げを記録。新規顧客の約3割をインターネット経由で獲得するなど、新しいお客さまへのアプローチに成功しました。

油っくりん好調・環境保全に貢献

ニオイまで取れる天ぷら油ろ過器「油っくりん」は、「安全・安心、地球環境保全に配慮した商品の開発」という商品開発基準を守り開発を進めた結果、フィルター125万個、本体32万個を販売するヒット商品となりました。油を有効的に再利用する地球にやさしい商品として、エコマークも取得できました。



横浜中央工場見学に上半期231名が来場

社会貢献(環境教育)の一環として、今期から小学生を対象とした工場見学を本格的に横浜中央工場にて実施。上半期だけで231名が来場。子どもたちや引率の先生からは「ダスキンの工場が環境にやさしいことを知った」など、うれしい声が多く寄せられ、また「おそうじ=ダスキン」のイメージ定着にも貢献しています。

社名 株式会社ダスキン
【DUSKIN CO., LTD.】
本社 〒564 0051
大阪府吹田市豊津町1番33号
設立 1963(昭和38)年2月4日
資本金 113億5,294万円
(2005年9月30日現在)
従業員数 2,022名(2005年9月30日現在)

役員(2005年6月28日現在)

代表取締役社長 伊東 英幸
専務取締役 足立 勤
高田 宥
常務取締役 西山 精也
取締役 大熊 敬介
近藤 恒俊
伊東 洋一
友井 正宏
西村 晴夫
長沼 洋一
宮島 賢一
山村 輝治
社外取締役 坂本 允子
監査役 石見 道信
吉開 勲
社外監査役 新井 ふく
田 積 司